

4×100m リレー、4×200m リレー、**メドレーリレー**の第 1 走者と第 2 走者間、第 2 走者と第 3 走者間(第 1 走者が 100m で第 2 走者が 200m、第 3 走者が 300m の場合)の**テイク・オーバー・ゾーン、バトンパス**が行える**区間**の長さが 20m から **30m** に変更されます。

この変更、屋外で行われる競技会の場合でのことです。室内競技のリレー(4×200m リレー)では変更ありません。

**メドレーリレー**の第 3 走者と第 4 走者間(第 3 走者が 300m で第 4 走者が 400m の場合)、4×400m リレー、それ以上の距離のリレーでは 20m で変更ありません。

また、4×200m リレーで第 3 走者の途中からレーンがオープンになる場合は、第 3 走者と第 4 走者間のテイク・オーバー・ゾーンは 20m のままで変わりません。

つまり改正前のルールにある、テイク・オーバー・ゾーンの**前 10m 以内**のところから走り始めてもよい**加速ゾーン**(通称「**ブルーゾーン**」)がある場合にそこでも**バトンパス**を行って良いこととなります。

ルール改正に伴いトラック上のマーキング(ラインなど)もかわります。

ただし既存の競技場は新しい位置にテイク・オーバー・ゾーン入口のマーキング(ラインなど)がありません。

直ぐに対応できない場合は改修工事などを行う際に変更していくこととなります。

新しくマーキングされていない競技場では、変更されるまで**加速ゾーンの入口の助走マーク**(通称、**ブルーライン**)がテイク・オーバー・ゾーンの入口です。

テイク・オーバー・ゾーンが 30m に変更、国際ルールでは既に 2017 年 11 月 1 日より適用されています。

日本では 2018 年 2 月の**日本陸上競技連盟**の会議で最終決定、2018 年 4 月から適用される予定で手続きがすすめられています。

**日本でも 2018 年度から適用されます。**

次の記事はリレーの**バトンパス**や**加速ゾーン**に関することが書かれていますが、中には**20m**の時の記載がありますのでご注意ください。記事に出てくる**加速ゾーン**はなくなりません。